

## 継灯式を終えて

看護学科第23期生1年生 継灯式委員一同

令和3年10月5日、23期生は、看護を志す者としての誇りと決意を誓い、看護師として成長していくことを確認する継灯式を行いました。私たち継灯式委員は、継灯式に向けて約一か月間、継灯式を看護師として成長していくことのできる機会にするために活動しました。

まず、23期生がどのような看護師像を思い描いているのか、描いている看護師像を目指す上で、今何をすべきなのかについて考えました。学年全体で何度も話し合った中で、「患者さんはもちろん、そのご家族にも寄り添うことが大切である」、「生命に携わる職業として、確かな知識と技術を身につけることが大切である」という考えを共通して持っていることが分かりました。さらに、コロナ蔓延による感染防止対策としてリモート講義や日常生活での行動の制限を経験したことで、「患者さんが病気によって多くの活動を制限されることがどれだけ苦痛であるか」を学び、「日常の様々な体験を看護へと結びつけていくこと」の大切さに気付くことができました。

次に私たちは、各自で思い描いた「なりたい看護師像」をカードに書きました。そして、「なりたい看護師像」を目指して進んで行けるよう、晴れやかな空に上り続ける風船をイメージして、模造紙にカードを貼り付け、私たちの決意を視覚化しました。

当日、継灯式では、各自の理想の看護師像を思い浮かべながら、ナイチンゲール像から灯をいただき、ナイチンゲール誓詞を唱えました。

今後、看護師を目指す私たちは大きな壁にぶつかることもあると思います。しかし、今回の継灯式で誓った自分たちの決意を忘れることなく、仲間と助け合い、切磋琢磨しながら、さらなる知識や技術を身につけていきたいと思っています。

